

# 東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378  
1) 義援金振替口座:02260-9-2305  
名義:カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座:00170-5-95979  
名義:カリタスジャパン

## 仙台教区復興支援活動に関わってくださるすべての皆様に クリスマスと新年のお喜びを申し上げます

仙台教区サポートセンター センター長 平賀 徹夫 司教

私は、2016年の新年に、これまで東日本大震災の復興支援に携わってこられた大勢のボランティアの皆様へ感謝を申し上げるとともに、「私たちのことを忘れないください」と懇願される被災者の心からの願いをお伝えいたしました。共に歩んでくださった皆様にとってこの一年は、いかがでしたでしょうか。

2016年は、熊本地震もあり、熊本、大分に住む多くの方々が被災されました。さらに、台風10号の影響による集中豪雨水害で、岩手県の岩泉、久慈、宮古などが被害を受けました。これらの被害のニュースが報道されるたびに、東日本大震災被災者の方々は、自分たちが被災したときのことを思い出され、わがことのように被災者の苦しみを自分の苦しみと重ね合わせていらっしゃることを思い、私は希望に満ちた年であるようにと願いながらも、皆様のために、主イエス・キリストにひたすら祈る日々を過ごしました。

熊本地震のときは、福岡教区が中心となり、すぐに「カリタス福岡・熊本支援センター」が開かれ、多くの方を支援するために、東北地方の被災地で復興支援活動に携わった人々が、熊本でも大きな力を発揮してくださったと聞いております。

また、岩手県の岩泉、久慈、宮古での水害被害の際にも、すぐに、泥かきなどの地道な、しかし、体力のいる支援に、宮古ベース、大槌ベース、カリタス釜石、大船渡ベース、そして近隣の小教区の方々がいち早くご協力くださいました。このご協力により、カトリック久慈教会は、泥に埋まった状態から、改修するまでになりました。さらに、岩泉町の被災者の「暖房がなく、寒い。暖房器がほしい」との声に、札幌カリタスの方々が、すぐに岩泉町や社会福祉協議会と連絡を取り、カリタスジャパンへ援助申請をし、小型ポータブル灯油暖房器260台分の支援をお届けすることができました。

12月10日には、JR常磐線の宮城県亘理町吉田浜から福島県相馬駅まで、23kmが開通いたしました。震災後、通勤・通学に不便を被っていた人々、とりわけ福島県の人々にとっては、復興へ目に見える形で希望の灯がともされたように思います。

東日本大震災被災者の多くの方々は、仮設住宅から復興公営住宅に移られ、新しいコミュニティ作りに努力なさっています。この方々のお力になりたいと、仙台教区では、今年も、昨年と変わらず皆様の側で、いつもご一緒に歩みたいと「新しい創造計画」の第4期計画を立てました。

全国のカトリック教会の支援を受けつつ、仙台教区内の各小教区教会が協力し合い、これまで培ってきた地域の方々との関係を大切にしながら、長期にわたって持続可能な活動の仕組みを作り出していこうとしています。

今年も、皆様にお目にかかることが多いと思いますが、どうぞよろしく願い申し上げます。

今号では、八木山オリーブの会が、被災者の方から自分たちの収穫したネギを使った「いも煮会」をカトリック八木山教会で行いたいという要望を受けて、今シーズン2度目となるいも煮会を八木山教会で実施した様子と、カトリック松木町教会「愛の支援グループ」が、6回目のクリスマス会を開催し、コスモス宮代（※文末に説明があります。）の皆さんと笑顔で楽しい時を過ごされた様子をご紹介します。

—今シーズン2度目のいも煮会—  
亘理地区の被災者の皆さんが  
八木山教会まで来てくださいました！  
八木山オリーブの会 小野 武

「自分たちがネギを作ったので、  
八木山教会に行って、いも煮をしたい！」

そんな被災者の声に応えて、八木山オリーブの会は、今シーズン2度目のいも煮会を11月30日、八木山教会で行いました。

津波被災者15名と、亘理教会の信徒やマリアの宣教者フランシスコ会のシスターたち6名が、亘理から来てくださいました。彼らの乗ったマイクロバスを迎えるのは、八木山教会と元寺小路教会の信徒、小松史朗神父様を含め、20名以上。総勢40名以上での「いも煮会」になりました。

参加した皆さんは、互いに顔見知りなので、自然に気軽にあいさつが始まります。まず、オルガンの演奏に合わせて「アーメン ハレルヤ」の合唱で、皆さんを歓迎しました。オリーブの会を代表して、片岡保彦さんと八木山教会を代表して岡田謙一さんが、「大いに楽しみにしていました。ゆったりと過ごしてください」と歓迎のあいさつ。

その後、待降節に入り、聖堂には「馬小屋」が飾られていましたが、被災者の中には「初めて見ました！」と言いながら、馬小屋をのぞき込んだり、再会を喜び合う姿もあちらこちらで見受けられました。

いも煮の下ごしらえは、前日から「台所のマリア様」（八木山教会オリーブの会では、台所で奉仕して下さる女性の方々をこのように呼んでいます）が準備してくださっていたので、ほどなく、一人ひとりに熱々のいも煮が配られ、「いも煮会」の始まりです。

本日のメニューは、いも煮、おにぎり、漬け物。「味がいいネ!!」と皆さん、舌鼓を打ちながらいただきます。最後にあん餅も振る舞われ、皆さん、大喜び！



笑顔で再会を喜ぶ皆さん



「馬小屋」を興味深そうに見入る参加者

お腹が満たされると、オリーブの会メンバーのギターに合わせて、「秋の歌」などの合唱が、聖堂内に響きわたります。つぎつぎと、ご自慢の歌や踊りも披露され、歓声と手拍子と拍手で盛り上がります。

～参加者からの挨拶、近況報告など～

- ・今回、参加された被災者の中に、卒寿（90歳）の方がおられ、「皆さんに支えられて今日があります。楽しく生きましょう！」と若々しく挨拶されました。
- ・「復興公営住宅の生活は、若い人にはいいかもしれないけどねえ、高齢者である私には、鉄の扉と厚いコンクリートの壁では、隣が遠く感じてしまう。」
- ・「復興公営住宅や自立再建した人たちの集まりは全然ないんだよ。だから、このオリーブの会の集まりが、ほんとうに楽しみでねえ。」



美味しいも煮を食べながら話も弾み、心も体も温くなりました

今回、亘理の人々が八木山に来てくださったお陰で、年齢を重ねたことから、最近では亘理での活動に参加できずにいたオリーブの会のメンバーも、笑顔でも煮会へ参加し、被災者の方とのなつかしい出会いの機会ともなりました。

八木山オリーブの会は、仮設集会所閉鎖後の復興公営住宅に住む被災者の孤独に寄り添っている数少ないグループの一つです。津波被災者が、カトリック教会の聖堂に集まり、歌を歌い、笑顔が見られる全国でも珍しい存在です。

「いも煮会」の締めくくりに、クリスマスの聖歌「きよしこの夜」を全員で歌いました。「今日は、とても楽しかった」「ありがとうね」と皆さんが口々に喜びと感謝の言葉をおっしゃり、手を振りあいながらお別れをしました。



## あれから6回目のクリスマス会 主の光に照らされて

カトリック松木町教会「愛の支援グループ」 鈴木 キミ子

松木町教会「愛の支援グループ」のカリタス・ふれあい茶の湯ボランティアは、避難所が閉鎖された後、仮設へと移っていきました。カリタスジャパンの支援をいただきながら今も繋がっている福島市宮代仮設住宅に住まわれている（原発事故により避難生活を強いられている浪江町民）皆さんと、少しずつ心が開かれてきた頃の2011年12月に「クリスマス会をしましょうか」と仮設の皆さんにお話したところ「まさか、こんな時にクリスマス会できるなんて・・・。本当に？」と、驚きと喜びでした。

今回、12月3日（土）6回目のクリスマス会を迎えました。あのとき、こんなに続くとは、思ってもいませんでした。避難生活も6年目に入り、帰還の困難さ、ふる里への戸惑いが多い中でのクリスマス会に向けて、私たちは様々な思いに心を寄せながら準備を進めてきました。CTVCの援助、松木町教会のボランティアに参加された方々のあったかな心遣いがあり、「主の光に照らされたクリスマス会」を開くことができました。

主の光に照らされて

プログラムは、一部と二部に。

一部は、会場が消灯され、アヴェマリア（シューベルト）の調べと共に「聖夜のひかり」の行列が入場。行列には教会学校の子もたちとお母さんたち、コスモス宮代（※）の女性とCTVC。ローソクの灯を手に調べの中、会場をゆっくりと一周し、ステージに並ぶ。



「聖夜のひかり」の行列

「聖夜のひかり」のナレーションが、やさしく語られる。

「クリスマスのやさしい光は、全世界を照らしています。  
悲しんでいる人にも、淋しい人にも、苦しんでいる人にも、  
笑っている人にも、明るく照らし、  
いつくしみをもって守ってくれています。  
毎日やさしい光で私たちが照らしてくれています。  
そうです。毎日がクリスマス。  
この宮代仮設住宅の大家族の絆も照らしています。  
なにがあっても、その人がその人である限り、寄り添い続けるやさしさ。  
それが家族なのでしょう。  
やさしい光、家族に生まれる無条件の愛。  
私たちの生きる力となっています。  
今日も、クリスマスの光に照らされて。」

ナレーションが終わると、アヴェマリア（グノー）の調べの中、今一度会場を一周して退場。

続けて、「しずけき」のメロディに合わせて「光の儀式」がフラダンスチームにより捧げられた。ペンライトを手に、純白ドレスの乙女が祈るように舞う。そして、点灯されていよいよ教会学校の番。例年ですと松木町教会クリスマス夜半ミサ前の聖劇を行っていましたが、昨年からは教会学校では、参加できる人数の関係から、手づくりのロール紙芝居なる聖劇と朗読を心を込めて準備し、力を合わせて発表してくれました。会場は、クリスマスの物語に吸い込まれているようでした。ところで、ロール紙芝居とはよく思いつかれました。とてもほのぼのとしていました。

教会学校の「聖劇」ロール紙芝居



コスモス宮代のうた

二部は、ささやかなパーティーの食事を囲みながらのアトラクション。原町バンド（CTVC）のピンクレディーのUFOが登場。歌、衣装と、とても楽しませていただきました。また、今回初めての、コスモス宮代の皆さんと松木町教会ボランティアさん、男女14名のインスタント混声合唱団のハーモニー（①ジングルベル ②青い山脈 ③コスモス宮代のうた）は、全く練習無しとは思えない驚きの出来栄でした。

では、「コスモス宮代のうた（高校三年生の替え歌）」をご紹介します。みましよう。

「コスモス宮代のうた」

赤い夕陽が 仮設をそめて 泣いた日もある 怨んだことも 残り少ない日数を胸に  
 桜の木陰に 弾む声 思い出すだろ なつかしく 夢がはばたく 遠い空  
 あゝコスモス宮代 ぼくら あゝコスモス宮代 ぼくら あゝコスモス宮代 ぼくら  
 離れ離れに なるうとも 浪江盆踊りの 輪になれば 道はそれぞれ 別れても  
 宮代仲間は いつまでも 甘く匂うよ 面影が 越えて歌おう この歌を

インスタント混声合唱団



アンコールに応じて「故郷」を全員で唄いました。ほっこりするよ  
 うな、胸が熱くなるような、そんな合唱でした。その後には、いつも  
 唄ってくださる浪江町のおばあさんお二人の見事な民謡。続いて浴衣  
 姿にたすきをかけ、花笠かざし、山形の花笠音頭の民謡に合わせて、  
 「コスモス宮代と松木町教会の踊り子」10人が会場を二周し、みん  
 なの手拍子と、「ヤッショ、マカショ」の掛け声も湧く賑やかさでした。  
 そして、全員楽しみにしていたビンゴゲームで盛り上がった後、松木  
 町教会の皆さんから様々な手作りの「神様からのプレゼント」があり、  
 最後に幸田司教様からクリスマスについてのお話をいただきました。  
 今回は、原町ベースにお世話になって南相馬からおばあさんたちも来  
 られ、民謡を唄ったり、懐かしい交流もあって、恵み多いクリスマス  
 会でした。私たちは、多くの方々に助けられ支え合うことができいま  
 す。これからも、カリタスの風が吹きつづけることでしょう。主の  
 光に照らされて。

民謡を披露する

佐藤ヒテ子さん 高橋タカヨさん



※コスモス宮代とは？

宮代仮設集会所には、仮設を出られて福島市内の災害公営住宅団地  
 や自宅に移住している方々も、移住先のコミュニケーション・今の生  
 活を大切にしながらもカリタスの私たちの集りに参加してくださって  
 います。宮代でつながった仲間を気遣うやさしさからでしょう。

そこで、私たちは、集会所に集まる皆さんに「宮代仮設住宅の皆さん」  
 から、今では「コスモス宮代」の皆さんと呼びかけています。

それは、コスモスの花は、浪江町の町花であり、「宮代仮設住宅で共  
 に励まし合ってきた浪江町民の皆さん」ということからです。今年の  
 8月の夏まつり、9月の敬老会、そして今回のクリスマス会などには、  
 相馬市や南相馬市に移住された方々も遠路、宮代に来てくださいま  
 した。さらに、年中行事イベントの外にも、サプライズで来てくださ  
 る方も。ある方は、「宮代は、カリタスさんとなつた心のふる里」と  
 も話されていました。

主のご降誕のお喜びを申し上げます

この一年、仙台教区サポートセンター（以下、サポート  
 センター）を変わずに支えてくださった皆様に、  
 心よりお礼申し上げます。

震災から5年以上が経過し、様々なところで転換期  
 を迎えております。サポートセンターにつきましても、  
 4月末に、これまで約5年間使用させていただいた部屋  
 から、SDSC 立ち上げ当初に使用していた部屋へと引  
 越しをしたり、9月末をもってカリタス米川ベースの運  
 営を終了し、カトリック大阪教会管区に移管するなど、  
 いくつかの変化がありました。

サポートセンターでは、状況に応じて変化しつつも、  
 7月に発表されました「新しい創造 基本計画第4期計  
 画」のとおり、皆様のお力をお借りしながら、直轄ベ  
 ース運営や事務的サポート、情報の発信、支援活動を行  
 っている方々の相互の連絡調整など、今後も継続的に活動  
 していく所存でございます。

これからも皆様からの変わらぬご支援、ご協力を  
 何卒よろしくお願いいたします。

新しい年も、皆さまの上に、主の豊かな恵みが注がれ  
 ますようにお祈りいたしております。

仙台教区サポートセンター 一同



熊本地震支援金、東日本大震災に対する募金の受付は、現在も、  
 引き続き行っております。

今後とも、多くの皆さまのご支援・ご協力をいただけますよう、  
 何卒よろしくお願いいたします。

《年末年始休業のお知らせ》

仙台教区サポートセンター及びカリタス石巻ベースでは、  
 以下の通り、年末年始のお休みをいただきます。  
 ご不便をおかけいたしますが、何卒よろしくお願いいたします。

[休業期間（仙台教区サポートセンター・カリタス石巻ベース）]  
 2016年12月28日（水）～2017年1月5日（木）

[ボランティア受け入れ停止期間（カリタス石巻ベース）]  
 2016年12月23日（金）～2017年1月8日（日）